

2020年7月12日(日)／説教者:名護良健

説教:『『平和の王』—敗戦から75年—』(名護良健)

聖書:ゼカリヤ書9:9~17

敗戦から75年、「国敗れてマツカーサー」と言われています。アメリカの言いなりに「日米安保条約」は今も作動している。特に、沖縄がそうである。「普天間基地」「辺野古」問題も停滞したままである。沖縄の現実と重なり、福岡時代の1960年代の安保闘争を思い出す。「安保反対」「沖縄を返せ」と叫ぶ。沖縄に帰り、牧師として60年、福音宣教に仕えて来た。10.10空襲体験、大分へ疎開、戦後首里へ引き揚げた。

大学では教員免許取得のため歴史、地理専攻。牧師に背中を押されて神学校へ進学。今の世界の歴史の現実を思えば、構造的平和論、平和論の内実に思いを馳せる。敗戦国日本に想いを馳せると内実は更に複雑と言える。聖書は、どう読むか。ゼカリヤに学びたい。時はアレキサンダー大王の時代の話。彼は当時の地中海沿岸を征服、それがイスラエルにとっては希望に見えた。エルサレムにあたらしい王城が築かれね捕囚の民が帰還すると思ったのですが。現実は厳しいものです。「シオンの娘よ、大いに呼ばわれ」と。それから300年後にイエスはエルサレムに入場された。馬小屋に生まれたのである。民衆は歓呼の声で迎えたのであるが、その同じ人達により十字架にかけられたのであった。平和の王の誕生であった。

コロナが世界に蔓延、厳しい状況にある。われわれはどうしたらいいのか、と問われている。世界の王は誰なのか。キリストに他ならない。「平和の王」キリスト!(名護良健)